



「頭の柔軟体操」～“ユーモア・ウィットの威力”をどうぞ！

人間考学を究めんとされる永遠の学徒、渡辺明・九州工業大学名誉教授にご登場いただいて、表題のシリーズをお届けします。

柔らかくほぐされた頭脳から、素敵な夢アイデアが誕生しますように！（コラム担当 T 生）

第 15 回

原点回帰 (No.6)

平成 26 (2014) 年 9 月

その昔、「オジちゃん 学校なんか誰が発明したんね？大人は学校へ行かんでいいからいいね」と、甥から詰問された。勉強嫌いな子供にとって、学校の存在は余程迷惑らしい。

また、幼稚園でお絵描きの時間に姪が書いた絵に、太陽が二つあったことを母親は「非常識だ」と強く咎めたが、父親がやんわりと尋ねたところ、「だって、あの日はとっても暑かったのだもん」と返ってきた由である。

朝な夕な、鏡台の前でペタペタやっているオ姉ちゃんに弟が訊いた。「どうしてそんなにいつもいつもお化粧するの？」「美くなるためよ」「じゃ、どうして美しくならないの？」

容赦ない、袈裟懸け一刀両断の弟の剣に、姉ちゃんの怒りが心頭に発したことは当然であろう。

甥や姪そして弟らの反応の何と正直なことか。彼らの単刀直入に本質を衝く自然体の生き方は、大人側がむしろ学ぶべきではないのかと此頃特に考えさせられている。

貧乏は 遺伝するかと 坊や訊き
リストラは どんな虎かと 坊や訊き
九条で ミサイルに勝てるかと 息子訊き

確かこの様な句を何処かで垣間見たのだが、いずれも本質を鋭く抉っていて、実に感銘深い。

以上に対し、例えば政治家は、「前向きに検討します」などと本音をごまかしたり、難題は先送りしてその場凌ぎに走ったり、肝心の国家を忘れて、「己の選挙のための政治」に傾いたり、万事において「本音で本気の真剣勝負」をしなくなっていることに、筆者は大きな危機感を禁じ得ないのである。彼らも昔はきっと純粋な正義感に燃え、瑞瑞しい感性で輝かしい未来の国造りを目指したに違いないのである。いつから変質したのであろうか。

現在、日本は尖閣、竹島、北方領土 etc.の問題で、周辺列強の軍事力を背景にした執拗な揺さ振りに苦闘しているのだが、所謂「ウンザリの自民党・ガツカリの民主党」がもたらしたツケは特に大きく、もし日本の政府がこれまでに確固たる主張を毅然整然たる手法で裏付けしてきていたら、事態はもっと違っていた筈で、「先送り軟弱外交」への反省が大いに求められよう。

選挙権欲しいと思う 18 歳 自分が選んだ国が見たい

これはある高校生が詠んだ歌だが、きっとこれまでの大人が造った日本を、もっとまじな、誇りある国に造り変えたいのであろう。

さて、筆者が九州工大勤務時代のことである。出張のため給料の受取りを事務室の女の子に頼んで出掛けるところ、当夜、彼女がロッカーに保管していたその金が盗難に遭い、無論、しがないサラリーマンの痛手は大きかったが、教室の皆さんから思いがけないカンパに与り、むしろ感激した。そしてその折、行きつけのラーメン屋のオヤジがやってきて、言った言葉がふるっていた。

「先生、お金盗られたそうですね。大学もドロボーに狙われるくらい格が上がったという訳ですよ。先生は何も悔やむことはありませんぞ。先生のお金はドロボー君がちゃんと遣ってくれるし、日銀の金は全然減っていませんからね。ハハハ」という工合であり、一瞬驚いたが、そんな荒っぽい見舞いの言葉に、却って、妙に説得させられたのであった。本音を隠す大人にウンザリしている近年の若者でも、これならきっとシャッポを脱ぐに違いない。

渡辺 明 九州工業大学名誉教授
夢アイデア審査委員会 初代（平成 14 年～17 年）委員長